

新潟市議会代表团 韓国訪問 報告書

新潟市議会代表团

団長	議長	小野	清一郎
団員	議員	山際	務
//	議員	荒井	宏幸
//	議員	高橋	哲也
//	議員	内山	航
//	議員	志賀	泰雄
//	議員	小泉	仲之

訪問日程 令和7年（2025年）10月15日から10月18日まで

10月15日（水曜）	新潟駅～成田空港～金海国際空港～蔚山広域市 ・蔚山市議会教育委員会歓迎夕食会
10月16日（木曜）	会議出席及び市内視察 ・蔚山広域市議会議長表敬、昼食会 ・現代自動車視察 ・現代オイルターミナル視察 ・テファガン国家庭園視察 ・蔚山工業祭視察
10月17日（金曜）	蔚山駅～五松駅～清州市 会議出席及び市内視察 ・清州市議会議長表敬 ・清州文化産業振興財団訪問 ・第14回清州工芸ビエンナーレ視察 ・清州市議会歓迎夕食会
10月18日（土曜）	清州市～仁川国際空港～成田空港～新潟駅

訪問地 大韓民国 蔚山（ウルサン）広域市、清州（チョンジュ）市

訪問目的 交流協定締結から19年となる蔚山広域市及び「東アジア文化都市」選定のつながりから交流を持っている清州市を訪問し、親善と相互理解を深めるとともに、今後の各分野における両市の交流や協力関係の更なる発展についての意見交換を行うことで、地方都市レベルの信頼関係の構築と本市の魅力発信、国際交流の一層の推進を図る。また、清州市では「第14回清州工芸ビエンナーレ」の視察を行う。

◎令和7年10月15日（水曜）18：00～19：30

○蔚山市議会教育委員会委員長主催歓迎夕食会

【面会者】安 大龍（アン・デリョン）蔚山広域市議会教育委員会委員長
金 琇鍾（キム・スジョン）蔚山広域市議会教育委員会委員、市議会副議長
文 碩柱（ムン・ソクチュ）蔚山広域市議会教育委員会委員
金 東七（キム・ドンチル）蔚山広域市議会教育委員会委員

【概要】

蔚山市内の飲食店において、蔚山広域市議会教育委員会との歓迎夕食会が開催された。教育専門委員室教育チーム長の司会により、まずは9月の新潟市表敬に対する感謝の言葉があり、その後出席者各位の紹介の後、安委員長から歓迎の言葉と9月の新潟市訪問の際の思い出話が語られた後、小野議長より再会の喜びの言葉と謝辞が述べられた。

乾杯後はそれぞれのテーブルにおいて新潟市と蔚山広域市の友好関係について、今後とも更に拡大すべきと、お互いの意思を確認しつつ交流を深めた。

国同士ではその関係性が時とともに変化しているが、新潟市と蔚山広域市の関係においてはこれまでと変わらず終始和やかなムードで夕食会を終了した。

【所見】

9月の蔚山広域市議会による新潟市訪問時において安委員長と小野議長はお会いしていたこともあり、冒頭から終始和やかなムードの夕食会であった。

話題の中で、本市との共通の課題として挙げられたのは少子化や若者の結婚観であり、これらの課題について、どちらかが解決の方向性が見えた段階で情報共有すべきものと感じた。

また、韓国は国土が日本より狭いこともあり、住宅事情についてはほぼ一軒家ではなくマンション志向とのことであり、いわゆるコンパクトシティが都市ごとに形成されている点は大変興味深いものであった。

◎令和7年10月16日(木曜)9:00~10:30

○現代自動車蔚山工場 訪問

【訪問先】現代自動車蔚山工場

【面会者】オク・スジョン 現代自動車 蔚山工場 ウルサンビジネス支援チーム

【概要】

≪会社説明≫

現代自動車は、グループ全体で年間730万台、単体では年間422万台の自動車を生産している。生産工場は、10ヶ国15ヶ所にあり、韓国には3ヶ所ある。

蔚山市の3大産業は、自動車、造船、化学工業である。

≪展示ホール見学≫

「古い未来」というテーマから、現代自動車の過去から未来への軌跡が展示されている。蔚山工場は、7.1万坪の敷地から始まり、現在は150万坪に拡大した。開発されていく過程の写真も展示されている。

最初に世に出た自動車は、「CORTINA (コルティナ)」である。次に出た自動車は「PONY (ポニー)」である。国産部品を使い韓国人の体型に合った車であり人気が出た。

草創期に現代自動車は、日本の三菱自動車へ工員を派遣して技術向上を目指した。派遣された工員は、昼間は技術を学び、夜は日本語を学び、より多くのことを習得しようと努めた。

≪生産工場見学≫

生産工場は、面積が150万坪あり、これはサッカースタジアムが670個入る大きさである。31,000人が勤務しており、そのうち8割にあたる約25,000人が技術者である。年間152万台を生産しており、世界最大級の自動車生産工場である。

広大な敷地内で働く人たちのために、食堂、カフェ、病院、消防隊がある。病院は健康に働けるように健康診断も受けることができる。消防隊には工場火災にも対応できるように消防車もある。広い敷地内を移動するために、シャトルバスが17台、バス停は44ヶ所ある。また、喫煙所やATMも随所に設置されていた。

工場内に入ると、車体がまるごと載せられる大きさのベルトコンベアが、縦横無尽に地面から天井へと部品、工具も含めゆっくりと動いている。

ここでは働いている人たちのほとんどが正社員である。8時間ずつの昼夜交代勤務となり、2時間ごとに10分間の休憩が入る。

≪埠頭見学≫

蔚山工場内には、1987年に完成した自社専用輸出埠頭がある。全長830mの船が3台停泊することができる。自動車は1日6,000台が生産され、その内の3,500~4,500台を輸出している。年間輸出台数は110万台である。

出来上がった車は、工場から埠頭へ1グループ10人のドライバーが1人1台ずつ運転して10台の車を移動させている。スピードもなかなか出ておりビュンビュン走って

いく様子も側道から見ることが出来た。運転後 10 人のドライバーは、また次の車を移動させるためにバスに乗って工場へ戻っていくのである。効率良く車を運んでいる現場を確認することが出来た。

【所見】

現代自動車蔚山工場は、工場内に自社専用の港を持つ世界でも珍しい工場である。

日本国内では、横須賀市にある日産追浜工場が閉鎖されることになったが、一部機能は残すことになっており、その中には東京湾に面した専用埠頭がある。現代自動車蔚山工場の港と同様である。

日産は、追浜工場と湘南工場が生産中止となり、生産拠点がなくなった今もなぜ埠頭を残す必要があるのか。様々な憶測もあるようだが、それだけこの自社専用埠頭には、利用価値があるのだろうと今回強く感じた。

完成したての自動車は猛スピードで生産工場から埠頭へ走り船の横に並んでいく行程は、実に効率がよく、コスト削減にもつながると思われる。

現代自動車はこれからさらに拡大していく勢いを感じるが、関税や、部品・材料等仕入れコストの上昇など扱う量が多い分、受ける影響も甚大であると思われる。難しい舵取りが経営陣には求められるが、生産拠点を見せてもらい勢いを感じるだけに、今後の動向を熱く見守りたい。

日本の自動車産業は世界を牽引してきたが、ここに来て一部陰りが見えており、そのことが国内の経済に与える影響は少なくない。本市も然りである。そのような中で、姉妹都市の蔚山市にある世界最大級の自動車工場を視察できたことは興味深いものであった。

◎令和7年10月16日（木曜）11：00～12：00

○蔚山広域市議会議長 表敬訪問

【訪問先】 蔚山広域市議会

【面会者】 イ・ソンリョン蔚山広域市議会議長

キム・ジョンソプ副議長

キム・スジョン副議長

コン・ジンヒョク議会運営委員会委員長

アン・デリョン教育委員会委員長

【蔚山広域市の概要】

大韓民国・蔚山広域市は、人口112万5千人を有する韓国南東部に位置する港湾都市。自動車、造船、石油化学などの重厚長大産業が集積する工業都市で、韓国の産業首都とも呼ばれ、現代自動車を中心とする現代グループの城下町と言える都市である。中区、南区、東区、北区、ウルチュ郡の4区、1郡の基礎自治体を置き、各区、郡には区・郡庁、区・郡議会を持っている。

新潟市と蔚山市の交流は、2002年の日韓ワールドカップを契機に、少年サッカー交流が始まり、以降、定期的に派遣と受け入れを交互に行っている。2006年には交流協定都市提携を結び、本年2025年9月にも蔚山市議会教育委員会9名が新潟市を訪れ、本市議長への表敬訪問などを行った。

【会談概要】

会談は蔚山広域市庁舎議会棟において行われた。会場に入ると新潟市のキャラクターである笹団五郎と花野古町が描かれたデジタルサイネージ（歓迎横断幕）が掲げられており、心のこもった出迎えを受けた。前日に蔚山市議会教育委員会委員長主催歓迎夕食会に招かれており、終始和やかに、時に笑いが起こるリラックスした雰囲気の中で会談が行われた。

はじめに、イ・ソンリョン蔚山広域市議会議長より歓迎の言葉をいただいた。新潟市議会の訪問に対し、この日が意義深い日となりうれしく思うとの言葉があり、産業都市である蔚山市で本日が産業工業祭が開催される日であるからと述べられた。新潟市が日本を代表する産業と文化都市であり、蔚山市と似ているとの評価もいただいた。蔚山市議会と新潟市議会が協力し交流するならば、地域の発展とともに、日本と韓国の友情も深くなるとの言葉もあり、特に青少年、文化の面で交流することが大きな取り組みになるとも示されておられた。

小野議長からは手厚い出迎えへの感謝の言葉とともに、新潟市のキャラクターを載せた横断幕についても重ねて感謝を示された。9月に蔚山市議会代表団が新潟市へ訪問されたこと、昨晚の歓迎夕食会で手厚いもてなしを受けたことについても感謝を述べた。意見交換として、若者がなかなか結婚しないこと、少子化など、新潟市と蔚山市との共通の課題を挙げられ、新潟市と蔚山市が意見を交わし、互いに知恵を出し合うことが大事ではないかと提言されたところ、イ・ソンリョン議長も大ききうなずかれていた。

【所見】

イ・ソンリョン蔚山広域市議会議長をはじめ、同席された蔚山広域市議会の皆様は大変気さくで、心配りが出来る方々であった。そのため、前日の歓迎夕食会の雰囲気そのまま続けているような和やかで、冗談も交し合える笑いの絶えない会談となった。蔚山広域市が韓国における一大工業都市であり、韓国経済をけん引している自負もあると思うが、世界的に不安定な情勢の中でも、明るい未来を政治によって切り拓こうとの強い意志を感じた。蔚山広域市議会と新潟市議会が更に交流を深化させ、互いの知見や経験を共有することが両市の更なる発展に繋がると感じた。

◎令和7年10月16日（木曜）14：00～15：00

○現代オイルターミナル株式会社 視察訪問

【面会者】 イ・ジェモ 現代オイルターミナル E&Sチーム チーム長
パク・ギイル 現代オイルターミナル ターミナル事業本部 本部長

【概要】

現代オイルターミナル株式会社を視察した。現代オイルターミナルは、2012年2月に現代オイルバンクの系列会社として法人設立後、2013年12月に蔚山ターミナルを完工し、2014年にはオイルバンク物流センター7カ所の委託運営、2019年には平澤（ピョンテク）ターミナルの買収を通じて、持続的に成長している会社である。前述したように国内でターミナルが2カ所（蔚山、平澤）、物流センター7カ所を有している。2つのターミナルを合計し約400,000kl、物流センターは7カ所の合計で370,000klの総貯蔵量を誇る。国内外の拠点として国内外からの重油やガソリン、パーム油等を貯蔵し、安定供給に貢献している。

さらに2026年には蔚山のターミナルを増設する計画があり、すでに工事が進んでいた。増設する新港第一埠頭ではさらに290,000klを貯蔵できる予定である。またメタノール、バイオ燃料等の環境対応型燃料の貯蔵も可能になるとのこと。さらに2028年にはアンモニアの貯蔵施設も増設予定となっており、国内外の拠点性を高める予定である。

【所見】

日本では近年、新しいオイルターミナルの新設や増設は行われていない。理由としては人口減少による需要低下や既存施設の老朽化による維持補修費の増加等があると思われる。ただ、それだけであれば韓国も同様の理由で新增設は難しいはずである。現代オイルターミナルの説明によれば、世界、とくにヨーロッパ諸国からの目が韓国に向けられている理由として、日本には地震のリスクがあると思われていることが1つ目の理由。日本への備蓄が安定供給につながるのか海外の企業が疑問視している可能性がある。2つ目の理由として中国ターミナル会社の初歩的なミスが度重なったことによる信頼性の失墜があるとのこと。以上の点から韓国が注目され、国内の人口が減少して需要が減ることが予想されていても、世界から韓国を経由してさらに世界へ、という流れができつつあるのだと感じた。日本としてもあらゆる世界の情勢に敏感にアンテナを張りながら勝てる分野を模索する必要があると強く感じた。

◎令和7年10月16日（木曜）16：00～17：00

○太和江国家庭園 訪問

【訪問先】太和江（テファガン）国家庭園

【面会者】李松子（イ・ソンジャ）太和江国家庭園 解説士

【概要】

太和江国家庭園は、韓国に2つしかない国家庭園のひとつである。

新潟市の姉妹都市である蔚山市の中心を流れる太和江沿いに広がる国家庭園で、湿地や花畑など自然と調和した都市型公園である。かつて蔚山市の産業化が進んだ時代には、各種排水により「死の川」と呼ばれるほどこの川は汚染されていたが、その後、太和江を生き返らせるプロジェクトが進められ、夏には鮎、秋には鮭が遡上するほど澄んだ川に蘇ったのである。

渡り鳥の生態観測名所にもなっており、冬には約4万羽のミヤマガラスが訪れ壮観な景色を楽しむことが出来る。かつて取水塔だった展望台はシンボリックな4階建てとなり、360度回転するカフェも併設されている。

公園内には長さ4 kmにも及ぶ竹林があり、夜になると「天の川」と呼ばれる竹林ライトアップが人気である。また昼間もマイナスイオンを浴びながら竹林を散策する人も多い。竹林の外側にある土の歩道を裸足で歩いている人も多く健康に良いとされているようである。都市の中に自然が広がっている公園から周辺を見渡せば、高層マンションが建ち並び、ここはまさに都会のオアシスといった様相である。そして多種多彩な草花が色づく美しい庭園である。

見せる庭園エリアには、人の手入れは敢えて少なめにしておき昔からあったように植栽するという自然主義の世界的に有名なオランダのデザイナーが手掛けた庭園がある。ここを目当てに訪れる人も多くいるそうである。確かに自然な感じの中に美しい調和があり見る人の心を癒すようである。

このように細密に考え抜かれ手入れがされている場所がある一方で、好意により草取りや清掃などボランティアを買って出る団体も活動していた。本市でも地域で活躍している公園愛護会の皆さんがいるが、こうした活動により庭園に愛着をもつ方も増えているのではないかと感じた。

庭園内を歩いていると所々にスタイリッシュなベンチが置かれていることに目が留まる。これらは地元企業からの寄付によるものであった。蔚山市は工業で発展している都市であるが、かつては公害により自然を破壊した時期があった。そしてそこから復活した誇りを今も忘れていない。そのことを象徴する姿がここにあった。

太和江という水辺空間に寄り添うように緑化された美しい庭園が都市の真ん中にあることで、そこに住む人々の日々の暮らしの中に、或いはここを訪れた人々の心の中に、潤いと癒しを与えているのだろうと思った。

本市にも、信濃川やすらぎ堤、県立鳥屋野潟公園、水の公園福島潟、佐潟公園、上堰潟公園、じゅんさい池公園など水辺空間と都市緑化により市民から愛されている公園が各地にある。これらをさらに充実させることにより都市の魅力を高めることに繋がると確信するに至った。今後の論議に希望を感じている。

【所見】

今回限られた時間ではあったが広大な太和江国立庭園の主要な場所を、日本語が堪能な解説士の案内と解説により効率よく歩いて回り、要所要所で立ち止まり質問にも応じてもらい解説を深く理解することができた。全身で水辺空間に整備された都市庭園を感じながら、本市との共通点、また本市が活かしきれてない資源、前向きに捉えればポテンシャルとなるヒントを学ぶことが出来た。

本市の水辺空間は、国や県が管理している所も多いが、目的を明確に連携しながら、市民や来訪者が、潤いと癒し、または健康増進や子育てを、安全に便利に享受できるように取り組むことが必要であると思っている。

本市と姉妹都市である蔚山市は、工業都市として発展しているが、その歴史の中で環境保全の大切さを学び、現在も自然保護や都市緑化を実践している。その象徴が太和江国立庭園であると今回確信することができ良かったと感謝している。

今後も本市から訪問団が訪韓する機会があると思うが、その際にはこの庭園を実際に歩いて、優れた所を感じ取ってもらいたいと思う。

◎令和7年10月16日（木曜）19：00～20：30

○蔚山工業祭観覧

【訪問先】「蔚山工業祭開幕式」（会場＝テファガン国家庭園）

【概要】

10月16日から19日まで開催される「蔚山工業祭り」は、蔚山広域市が工業都市であることから開催されるもので、工業都市蔚山を楽しめるよう様々な行事が企画されたものである。

会場には多くの市民が集い、ステージ上のイベントに目を向ける方々のほか、出店などによる飲食の提供に家族や友人と舌鼓を打つ方々など、思い思いに祭りに参加していた。

開幕時には花火が打ち上げられたほか、ドローンショーも開催され、ステージも派手な装飾が施されるなど、市民、企業力を結集した壮大なイベントである。

【所見】

韓国における自動車の生産高で1位を誇る現代自動車のお膝元であり、系列企業やその他の工業系企業の協賛によるものか、大掛かりなイベントであることが伺えた。

当日は天候も心配されたものの、開幕時には穏やかな天気となり、予定通りの行事が行われ、花火はもちろんのこと、特にドローンショーは圧巻であった。

今年の新潟まつりは雨天により花火の打ち上げ中止となったが、ドローンショーであればプログラミングの変更は必要にせよリスクが少ないように思えた。

機会があれば、こういったイベント開催においての情報交換などの必要性も考えていくべきものだと感じた。

◎令和7年10月17日（金曜）13：05～13：40

○清州市議会議長表敬

【訪問先】清州市議会

【面会者】金賢基（キム・ヒョンギ）清州市議会議長

【概要】

清州市議会を表敬訪問し、キム・ヒョンギ議長と小野清一郎議長が会談を行った。

キム議長の歓迎のご挨拶では「2015年より新潟市とは東アジア文化都市交流を契機に交流が続いており本日そのご縁があり訪問していただいたことを大変うれしく思っている。特に今年は日韓国交正常化60周年という節目の年であり両市議会がこれまで以上に特別な意味をもつと思っている。本日の表敬が単なる表敬の枠を超えこれまで以上に信頼友情関係をより強固なものにして未来志向への協力関係を構築する貴重な時間であることをお祈りします」との考えを示された。

市議会代表団団長の小野議長からは「コロナ禍において渡航が制限される中でもオンラインで青少年による交流・情報交換を行ってきた。本日表敬訪問をさせていただき今後も清州市、新潟市ともに文化交流だけでなくお互いさらなる関係が構築できるものと確信をしている。」と挨拶があった。

【所見】

両議長の挨拶の後、清州市議会のプロモーションビデオが上映された。本市も議会報告会を毎年開催しているが、各常任委員会がどういった分野を担当しているのか分かりやすく説明している動画を閲覧し新潟市議会でも取り入れたいと思った。

また清州市議会では常にYouTubeで議会報告を行っていて情報発信に関しては見習わなければならないと感じた。

終始、和やかな意見交換を行い夜の歓迎会で語り合おうと約束し表敬訪問を終えた。

◎令和7年10月17日（金曜）14：00～14：20

○清州市文化産業振興財団 訪問

【訪問先】清州市文化産業振興財団

【面会者】卞光燮（ビョン・グァンソプ）清州市文化産業振興財団代表理事

【概要】

清州国際ビエンナーレは1999年に初めて開催され、それ以降、清州芸術の殿堂一帯で隔年開催されている。現代工芸に関する分野だけでなく、伝統工芸や産業工芸までも取り入れられており、工芸の現在と未来を眺望し工芸産業の活性化を図る目的で創設された。

現存する世界最古の金属活字本である「直指心体要節」を印刷した歴史的脈絡を現代に継承して世界工芸文化の新たな方向性を提示し工芸産業の活性化を図る目的で創設された。

国際工芸公募展、招待作家展などの展示イベントや工芸産業館などを誘致することで工芸と工芸産業の発展を図り、産業資源部や文化観光部などから正式に予算が支援されている国の文化イベントである。

【所見】

挨拶の冒頭に清州工芸ビエンナーレの主宰ビョン氏から、以前新潟市に来訪された際に市議会の高橋三義元議長のお宅に招待されたこともあり、日本には特別な思いを抱いておられるとお話をお聞きし、日本に好意的な方という印象を感じた。

我々議員団が訪問した翌週には、日本のダンスチームが清州市に来訪する予定になっており、日本の姉妹都市と清州市、釜山市と毎年相互に文化交流を行っていることはとても意義深いことだと思っているとお話しされた。

清州工芸ビエンナーレの会場として使用している建物は、1946年にたばこ工場として建設されましたがその役割を終えて今は文化創造を創る空間として利用を市が許可をしているとのこと。

工芸ビエンナーレの目の前には国際美術館、現代美術館があり裏手には文化関係の企業が100社ありました。このように集約させることは街づくり形成するのは大変なことだと感じ、清州市がどれだけ文化芸術に重きを置いているのかが窺い知ることが出来た。

新潟市として今後も清州市との国際交流を行い文化芸術に関して相互に情報交換を行う約束を交わし、有意義な訪問となった。

◎令和7年10月17日（金曜）14：30～15：40

○第14回清州工芸ビエンナーレ視察

【訪問先】 清州工芸ビエンナーレ

【面会者】 ビョン・グァンソプ清州市文化産業振興財団代表理事

【概要】

清州市は、現存する世界最古の金属活字本「直指」が刊行されたユネスコ世界記憶遺産がある都市で、1999年から世界初となる工芸分野専門ビエンナーレを開催してきた。本年2025年の第14回目は、「世界を創り直す Re_Crafting Tomorrow」をテーマに開催された。美術・デザイン・建築を包括し、人間・自然・物をつなぎ、集合的無意識と文化を表現するコミュニティとともに、工芸の新たなアイデンティティと可能性を探り、デジタルテクノロジーの時代に工芸が身体の回復や物質的知性を高めるといった本質的な価値に着目している。

これら今回のテーマを象徴する本展は全部で4つのセクションで構成されている。第1セクションは、「普遍的文明としての工芸」で、工芸が建築、絵画、デザインへと発展してきた道筋とその相互関係を辿っている。建築家やデザイナー、彫刻家、画家など多様な分野の芸術家が工芸を「文明の原型」として敬意を込めて表現している。第2セクションは、「美を愛する人のための工芸」で、工芸が持つ身体性に光を当てている。視覚情報や記号消費に隠された触覚的思考の重要性を再認識させるとしている。第3セクションは「すべての存在のための工芸」で、自然や地球上の生命に対して罪悪感を伴わない工芸の価値を探るとしている。

第4セクションは「地域と共に歩む工芸」で、誰もが工芸家であるという理念のもと、ものづくりの喜びを分かち合う場を創り出すとしている。

その他、招待国であるタイの招待国展、現代自動車の特別展などがある。

【所感】

今回で14回目を数える清州工芸ビエンナーレを視察し、清州市の文化芸術に掛ける熱を肌で感じた。韓国で唯一、世界工芸協会から世界工芸都市として認定されているだけに、60か国以上の国が参加し、毎回30万人以上の来場者が世界から訪れるこの一大工芸祭が清州市にとっていかに重要な取り組みであるか推察できる。

実際に展示されている作品も、テーマに沿いながらも独創的な作品が多く、均等性をわざと崩しアンバランスさに芸術を感じさせる作品、創作手順に芸術性を含んだ作品、また、平和への大切さを想起させるメッセージを含んだ作品などがあり、訪れた観覧者に深い思索を促すものが多かったように思う。一方で、美しさや独創性により素直に作品自体を楽しめる物も多く、特定された方々だけではないユニバーサルな工芸祭であると感じた。

日本の工芸家も作品を出展していたが、こうした文化・芸術による交流が両国の理解促進に繋がり、更には世界の平和にも繋がると感じた。本市は清州市と文化的に繋がりが深いことからそうした役割を果たすべきと感じた視察であった。

◎令和7年10月17日（金曜）16：30～18：30

○清州市議会歓迎夕食会

【会場】 J-ONEホテル清州

【面会者】 金賢基（キム・ヒョンギ）清州市議会議長 ほか

【概要・所見】

清州市議会キム・ヒョンギ議長をはじめ10名の清州市議会の方々とJ-ONEホテル清州にて交流を行った。

はじめに清州市、新潟市の議員団の紹介がありそれぞれの団長からご挨拶の後、それぞれの卓にて歓談し、通訳の方を介して少子化や韓国のマンション購入倍率の現状、日本に対するイメージなどについて話をお聞きした。

韓国にも地域間格差が当然あるが、清州市ではコンパクトシティを目指しており、市がマンションエリアを明確にして高層マンション群を形成し、そのエリアに学校や保育園、商業施設や病院などが集約されていることから、高層階は富裕層に人気であることはもちろんのこと、低層階に関しても立地によっては100倍の倍率もあるとのこと。

また、日本のイメージについては、教育の中では戦争があり植民地時代の慰安婦問題に関しては日本に対するネガティブな感情を刷り込まれたことは否めないが、現在では日本を嫌悪する人はほとんどいないとのこと。

日本人は韓流ドラマやK-POP、韓国料理が、韓国人は日本の文化や食、温かい人間性が好きとの話をお聞きした。

その後もまちづくりの想いやお互いの家族の話などを話しながら親睦を深める機会となり、清州市議団も必ず新潟に行くからと言っていただき約束を交わした。

《総括》

新潟市代表団で韓国蔚山広域市、清州市を訪問し非常に有意義な時間を過ごせた。

昨今、世界に目を向ければロシア・ウクライナ紛争、イスラエル・パレスチナ紛争、ヨーロッパ諸国を見ても移民問題で国内が揺れている地域も存在する。世界の情勢が非常に不安定な時代に突入している。

新潟市は蔚山広域市とは交流協定を締結して 19 年。清州市、中国青島市とは東アジア文化都市選定のつながりにより 2015 年から交流を続けているが、常に日本、中国、韓国の国内情勢に左右されたり、新型コロナウイルス等の避けられない理由があったりして、様々な影響を大きく受けてきた。

そんな国際情勢の中、今年新潟市代表団として蔚山広域市、清州市を訪問できたことは非常に意義深かったと考える。両市の議長はじめ市議会の皆さんから温かく迎えていただき、意見交換も非常に盛り上がった。お互いの国の違いを尊重し、同じ部分に共感し、信頼関係を構築できたのではないかと感じる。

個別の視察先については前述したとおりであるが、韓国の気候、植物、一見した景色は日本に非常に似通っているように思えた。一点全く違う所と言えば、マンション（韓国ではアパートと表現するが）の量が一戸建ての量をはるかに凌駕している点である。2000 年代前半でマンションの割合が 6 割以上とのことだったが（日本では 55% 前後が一戸建て）、その差は 2025 年にさらに開いていると思われた。視察中一戸建てを発見することはほぼ困難だった。そしてそのマンション群の中に小学校から高校まであり、病院やスーパーマーケットが存在している。人口減少社会にあってコンパクトなまちを見ることができた。政府の方針ではなく、韓国の方はマンションが好きだと視察先のどの方もおっしゃっていた。

韓国の方がマンションを好きになった理由の一つとして政府の方針が関わっているかはわからなかったし、どの議員も否定していたので「国民性」ということができるかもしれないが、コンパクトなまちにいろいろなものが揃っており、そこをめぐって公共交通を走らせるという人口減少社会における一つのヒントを見たような気がする。

また韓国の新幹線の駅には改札が存在していなかった。切符をオンライン等で購入し座席に座るだけ。乗務員の方が確認するらしいが、どの様な課題とメリットがあるのか今後の追加テーマとしたい。

今回の訪問を通じて、現地訪問による交流、理解促進は両国の平和と発展に大きく寄与するものだと感じた。今後も議会同士の交流や青年交流、文化イベント交流が促進されること期待する。

結びに今回の訪問を受け入れていただいた蔚山広域市及び清州市の皆様、事前準備を担っていただいた新潟市議会事務局に御礼申し上げ、報告とする。

令和7年度新潟市議会代表团 韓国蔚山広域市及び清州市訪問 記録写真



現代自動車にて



現代自動車視察の様子



蔚山広域市議会表敬の様子



デジタルサイネージ



蔚山広域市議会表敬の様子



蔚山広域市議会表敬の様子（議場にて）



現代オイルターミナル視察の様子



現代オイルターミナルにて



太和江（テファガン）国家庭園



太和江（テファガン）国家庭園にて



蔚山工業祭開幕式の様子



蔚山工業祭開幕式の様子



清州市議会表敬の様子



清州市議会表敬の様子（キム議長と）



清州市議会表敬の様子（議場にて）



清州市文化産業振興財団訪問の様子



清州市文化産業振興財団にて



清州工芸ビエンナーレ視察の様子



清州工芸ビエンナーレ視察の様子



清州工芸ビエンナーレにて